

助けたい気持ちはおなじ

安心・安全な暮らしを支えてくれる消防士。消火・救急・救助などを担い、危険な現場も多いことから、男性のイメージが強い職業ですが、そこには力強く奮闘する女性の姿もあります。城東消防署で活躍している彼女たちの「助けたい」という想いは男性隊員とおなじ。そんな彼女たちに消防士をめざしたきっかけや、訓練のようすなどについて伺いました。

消火隊

救われた経験から、救う側へ

こどもの頃、自転車事故で骨折したとき、消防士のお兄さんに助けられ、病院に連れていってもらった経験があります。その頃から消防士はやさしくて、カッコいい憧れの存在で、中学生以降、将来の職業は、消防士しか考えられませんでした。両親には「危険と隣り合わせだから、やめてほしい」と反対されましたが、折れることはなかったです。

現場で動くために必要な体づくり

大阪市消防局の採用試験に合格し、2019年4月から半年間、放水・救出訓練など消防士になるための基礎的な技術を学ぶために、消防学校に入りました。そこで痛感したのは、体力不足。高校時代、ソフトボール部でインターハイにも出たこともあり、体力には自信があったのですが、現場で十分に動くには、身体を一から作り直さなければならぬと感じました。



妹背 蒔依さん

それから城東消防署消火隊に配属され、約2か月が経ちました。9時～翌朝9時まで、24時間サイクルの勤務をしています。まだ、火災の現場経験は少なく、関係者への対応もごちない

ですが、「話しかけやすい」と思われることは、女性のメリットだと感じます。

現場へ出場しないときは、放水訓練・消防機械器具の取扱訓練など、災害現場に基づいた訓練に多くの時間を費やし

ています。休みの日も、時間があれば筋トレやランニングに励みます。その成果があらわれたのか、通水状態のホースの重さは約70キロにもなりますが、以前より軽く感じるようになりました。



資器材が軽量化され、以前より扱いやすくなっています

気さくな先輩、ONとOFFの切り替えはさすが!

先輩方は気さくで訓練にも付き合ってください、休憩時間には、恋愛の話も含め、雑談を楽しんでいます。しかし、ひとたび、出場要請があると、みな消防隊員の顔に切り替わり、迅速に行動します。そんな姿をみて、やはりカッコいいなと思いますし、私も防火衣を身に着けるたびに「助けにいくぞ」という責任感と正義感が沸き起こるのを感じます。

大切なのは人を助けたいという気持ち



次の目標は救急救命士です。救急救命士は、高度な救命処置ができ、助けられる人が増えるからです。消防士というと、男性のイメージですが、女性だからといって不利なことは何もありません。私と同じように、「人を助けたい」という気持ちがある人、体力に自信がある人は、ぜひ迷わずめざしてほしいと思います。

お知らせ 住宅用火災警報器は10年経ったら取替えましょう!

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災を検知しなくなることがあるため、機器本体を取替えましょう!設置時期は本体に記載されている「製造年月日」等により確認してください。

※住宅用火災警報器は、消防法により設置が義務付けられています。まだ設置されていないご家庭はこの機会に設置してください!

5 ページにも城東消防署からのお知らせがあります



救急隊

いつ、いかなるときも冷静に

事故現場や急病人の所へ救急車で駆け付け、病院搬送する救急救命士をしています。症状に応じて、容態を悪化させないよう、最善の方法を見極め、迅速に対応しなければなりません。心肺停止を含む重症者に対しては、病院に到着するまでに、医師の指導を受けたうえで、気道確保のための器具を挿入したり、止まった心臓を動かすため点滴で強心薬を投与したり、血糖値を測定して、低血糖が起きている場合は、ブドウ糖を点滴するなど救急救命処置を行います。



坪井 美佑紀さん

患者さんやその家族に寄り添って

現場に到着し、救急車から病院に向かうまでの間、病院と患者家族の両方に連絡します。病院との連絡では、負傷者等の年齢、性別、処置の内容など、専門用語を使い、状況がイメージしやすいよう迅速に伝えます。一方で患者家族へは、パニック状態に陥らないように、かみ砕いてゆっくり分かりやすく話します。困ったことは電話連絡しても、救急隊に女性がいると思われず、セールスなどと間違えられ「忙しいから」と電話を切られてしまったとき(泣)。ですので、サイレンが鳴っているときに電話し、救急隊からの電話と分かるように工夫しています。



逆に女性のメリットは、安心感を与えやすいこと。特に高齢の女性からは「女性でよかった」と安心されます。名前や部屋の号数、一人暮らしかどうかなど必要な情報を話していただきやすくなる



ため、私も、ヘルメットを少しずらし、顔がみえるようにしています。後日、急病などで搬送された方より「元気になりました」と言っていたときは、消防士をやっていたよかったですと感じます。

自分に何ができるのかを知り、仲間と協力する

悩みは、他の隊員と比べ背が低いので、ストレッチャーを抱えるときバランスをとるために負荷がかかりやすく、腰を痛めがちなこと。太ももの筋肉をつけるなど努力したり、立ち位置を工夫したりしています。大切なのは、今自分ができていることを理解したうえで、他の隊員と助け合うことです。男性隊員に、強い力が必要などところをカバーしてもらおうこともあれば、逆に私が、技術や知識で、男性隊員をカバーすることもあります。

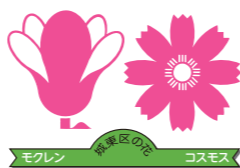
どんな状況にもくじけず、自分の力を高めていく

現場では、一つ間違えると負傷者等だけでなく、自分や大切な隊員の命を失いかねません。現場は、上司からの厳しい言葉が飛び交っていますが、これにくじけず、自分の能力を高めていけば、一つでも多くの命が救え、自信につながります。カッコいいだけではできないかもしれません。しかし、人の命を直接救える、素晴らしい職業ですので、たくさんの女性にチャレンジしてほしいですね。



CONTENTS

- 2 クローズアップ 助けたい気持ちはおなじ
- 4 トピックス 城東区防災フェスタ など
- 4 お知らせ 所得税・復興特別所得税、個人市・府民税の申告受付 など
- 7 子育て 多胎プレパパママ教室 など
- 8 健康 「いきいき百歳体操」 など
- 9 相談 各種専門相談
- 10 イベント・講座 第15回 コスモス♪コンサート など
- 13 城東区通信 松本区長の城東大好記 / 地活協だより
- 14 大阪市民のみなさんへ 新たな大都市制度 など
- 20 安心安全なケータイライフのために



モクレン コスモス



城東消防署長 高島 良彦さん

年齢・性別・階級問わず、意見を言い合える職場に

お互いに命を預けて活動する消防の現場では、チームワークが非常に重要です。意思疎通を図るために、全員顔を合わせたミーティングや個人面談のほか、各部署の代表者で構成した「活力ある職場推進チーム」を中心に、年齢階級問わずお互いを尊重したうえで、意見が言い合える職場づくりを推進しています。

これから女性の消防士が増えていく中で、限界を感じず、何にでも挑戦できる環境を築いていきたいと思っています。安心して暮らせる「災害に強いまち・安全な都市」をめざし、日頃から知識、技術、体力を備え、いざというときに消防署の能力をフルに発揮し、皆さまの期待に応えていきます。

区公式SNS

イベント・緊急情報など随時発信中! チェックとフォローをお願いします!

